

入選

テーマ…未来のための今を生きる
「失って気づいた大切なコト」

福島県立白河旭高等学校2年 飯村和佳奈

部活が終わり、迎えを待っていた私を母が見つめ強く抱きしめた。何が起きているのか分からない私はただ茫然(ぼうぜん)と抱かれたまま立つことしかできなかった。

中学1年生の冬、私は父を亡くした。心筋梗塞だった。私は車の中で母に説明をされるが、涙が止まらず、重くつらすぎる現実を受け止めることができなかった。頭の中は疑問と悲しみで埋め尽くされた。

「どうして。何で。嘘だよね」

私は頭が真っ白になり、息をすることさえも忘れてしまうほど、感情が一気にこみあげてきた。自分ではコントロールができないくらい悲しみに襲われて泣き叫ぶことしかできなかった。今日の朝まで何もなく、ただ普通の生活をしていたのに。普通が普通じゃなくなった。これからどうなってしまっただろう。悲しみと共に不安が大きくなっていった。

人にはいつか「死」というものが訪れる。それは分かっていた。でもまさか「今日」なんて、思ってもいなかった。

私は、父を救うことができたんじゃないかと自分を責めた。あの時、あの瞬間、少しの変化に気づいてあげられれば。

どうしてつらかったことを言ってくれなかったんだろう。ずっと苦しんでいたことをどうして伝えてくれなかったんだろう。なんで私たちが家族をおいてしまったんだろう。父を責めても責めきれなかった。あの時は。

あれから4年経ち、高校生になった私は、少しずつ現実を受け止められるようになった。もちろん今でも父のことを考えると、胸が苦しくなる。でもそれと同時に、父が亡くなってから今日まで、あの時に

は分からなかったことに気づくことができるようになった。

それは母の強さだ。母は、毎日泣いていた私と弟をいつもそばで支えてくれた。私たちの前では一切弱音を吐かず、涙も見せずに強く優しい母でいてくれた。毎日毎日朝から夜まで働き、家に帰ってきてもご飯を作り洗濯をし、弟の面倒も見ている。この4年間、体調を崩しながらも頑張ってくれている母を毎日見てきた。

確かに父が亡くなる前の生活を送ることは難しい。だから時には周りから心無い言葉を言われる時もある。だけど母は、そんな言葉を吹き飛ばすほど私たちを笑顔にしてくれ、そして守ってくれた。

私は今、改めて母の強さと努力を尊敬する。悲しみのどん底にいたあの時、救ってくれたのは母だった。本当はあの時、一番つらかったのは母であつたはずなのに。今になってようやくそのことに気づくことができた。

だから私は今、つらくて苦しい思いをしている人に伝えたいことがある。それは、必ず周りに支えてくれる人がいるということだ。決して独りではないということに気づいてほしい。どんなにつらくて、現実を受け止めることができなくても、何とかしてあなたを救おうとしてくれる人がいるのだ。そして、もっと伝えたいことは、あなたを支えてくれる人にも、本当は支えが必要なかもしれないということだ。あなたの前ではいつも笑顔で手を差し伸べてくれる人は、本当は心で泣いているかもしれない。笑っていても悲しい思いをしていたり、怒っていても本当は心が傷ついたりしているのかもしれない。私の母がそうだったように。

でも、だからこそ支えあつて一緒に前に進んでいくしかないのだと思う。私の母が私にしてくれたように。そしてだからこそ今度は、私が母を支えていく番なのだ。家族として、人として、支えあつていくのは当然のことだ。これから生きていく中で、どんなにうれしいことや幸せなことがあっても、この心の傷は癒えることはない。だけれど、もがき苦しんでいるだけでは前に進めない。だから私は、未来のために、これからも前を向いて、一日一日を強く生きていく。